

第5学年 道徳学習指導案

第5学年2組 22名
指導者 安藤 淳一

1 主題名 相手の立場になって (2-(4)寛容・謙虚)

2 資料名 「すれちがい」

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

人は自分の価値基準、行動規範と異なる言動に出合ったとき、怒ったり非難したりしてしまうことが多い。相手がなぜそのような言動をとったのか考えられず、自分の立場や利害だけで判断や行動をしがちである。しかし、それでは温かく深まりのある人間関係を築くことはできない。相手の心情を考え、利害による判断や安易な妥協を越えて、広い心で相手の立場を認めることが大切である。また、自分も過ちを犯すことがあると自覚し、相手の心情や立場を考え、広い心で接する必要がある。

(2) 児童の実態について

高学年になると、児童は他人を大切にすることの必要性を感じてはいるが、自分と異なった言動を受け入れられないことがある。本学級も例外ではなく、明るく素直で気の優しい面があるものの自分の利害がからんでくると、自分を正当化したり安易な妥協をしたりする場面がみられる。休み時間の遊びにおいても、自分の言い分を通そうとするあまり、友達の気持ちを聞かずにトラブルになることがある。そこで自分の気持ちだけではなく、相手の立場や気持ちがあると気づき、それを受け入れようとする心を育てたい。

(3) 資料について

本資料は、普段児童たちが生活している中で起こりうる事柄であり、児童たち自身が身近な問題としてとらえることができると考える。

まずは、よし子とえり子の二人の日記からそれぞれの気持ちに共感させたい。次に、二人の気持ちがすれちがわないための解決策を考えることで、相手の立場を考える大切さに気付かせたい。よりよい人間関係を築くためには、その場の自分の感情に左右されず、相手の事情に耳を傾けたり自分の思いを素直に伝えたりすることが大切だということを考えさせたい。

4 研究主題との関連

①資料提示の工夫

学級を二つのグループに分け、半分の児童にはよし子のみの作文、もう半分の児童にはえり子のみの作文を配布する。一方の事情しか知らないことで、それぞれの気持ちに共感できるようにする。

②展開の工夫

前半 児童がそれぞれの人物になりきって役割演技をする意見交換によって、相手の事情が分からないと自分本位に考えてしまうことに気付かせる。

後半 教師が相手役になり、役割演技をすることによって、自分の気持ちだけではなく、相手の立場や気持ちを考えることが大切だと気付かせる。

5 本時の学習

(1) 本時のねらい

物事を自分本位な見方でとらえてしまいがちであることに気付き、広い心で相手の立場を考へ、自分と異なる意見や考えを大切にしようとする気持ちを育てる。

(2) 本時の展開

	学習活動（主な発問○と予想される反応・）	指導上の留意点◇・評価◆
導入	<p>1 普段の生活で、誤解されてけんかになってしまったことについて発表する。</p> <p>○ 友達に誤解されてけんかになってしまった時、どんな気持ちでしたか。</p>	<p>◇ 日常的によくある身近な問題であることを気付かせ、ねらいとする価値への方向付けを図る。</p>
展開前段	<p>2 資料『よし子の日記』『えり子の日記』を読んで話し合う。</p> <p>○ よし子とえり子はお互いに怒っているのはどんな気持ちからでしょう。お互いに言いたいことを言い合ひましょう。</p> <p>(よし子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電話ぐらいしてくれてもいいのに。 ・もう、えり子さんとはあまりつきあいたくない。 <p>(えり子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理由くらい聞いてくれてもいいのに。 ・謝ったのに何で許してくれないの。 <p>(両者の事情について担任が説明するのを聞く。)</p> <p>3 二人へのアドバイスを考える</p> <p>◎ すれちがってしまった二人にアドバイスをするなら何と言いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よし子はえり子の話を聞いてあげればよかったね。 ・相手の言い分も聞いてあげればいいね。 ・自分の気持ちばかり押し付けしないで、相手の気持ちも考えなよ。 	<p>◇ 児童を二つの教室に分け、それぞれの日記の範読を聞く。</p> <p>◇ それぞれの立場になりきって役割演技させる。</p> <p>◇ 板書により、どのような経緯でけんかになってしまったか十分理解させる。</p> <p>◇ 教師と役割演技をすることにより、二人に足りなかった点を深く考えさせる。</p> <p>◆ 自分の気持ちだけでなく、相手の立場を考えることの大切さに気づいている。(ワークシート・発言)</p>
展開後段	<p>4 自分や自分のまわりの生活を振り返る。</p> <p>○ あなたはやわらかい心や広い心をもっていますか。また、あなたのまわりでやわらかい心で接している人はいますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを考えないで怒ってしまった事があるな。 	<p>◇ 寛容・謙虚な心情面にスポットをあてるようにし、心の中で思い起こすことができるように、時間を確保する。</p>
終末	<p>5 教師の話聞く。</p> <p>○ 相田みつをの詩「セトモノと」を読む。</p>	<p>◇ 本時で学んだことが、詩を通して児童の心にしみ入ることをねらいとする。</p>

【研究協議会】

(1) 自評

事前のアンケートで「もめごとが解決した後でも全員が納得することはありえない。」と考える児童が複数名いた。研究主題である、「よりよい人間関係を築いていく力の育成」をするためにも、話し合いによってもめごとが解決に向かうということを体験させていくことが必要であると考えた。そのために様々な場面を設定して話し合い、解決していく場面を作ってきた。今回使用した題材は、児童に一方の状況しか分からない状態を意図的に作ることができる題材である。この点を活用し、一方のみの資料を与え、登場人物の気持ちにより入りこみやすい状況をつくった。さらに役割演技をさせることにより、児童が二人の言い分にかみ合わない点があることに気付かせることができた。中盤に登場する教員と児童の役割演技の部分では、児童の声を十分に生かすことができなかつたので、児童の考えをより深く追及するための発問や方法を練っていくことが必要であると感じた。

(2) 協議

<視点1> 教師が相手役になり、役割演技をすることは、ねらいとする価値に迫るために有効であったか。

- ・方法は有効であったが、児童にねらいとする価値を考えさせるのには弱かった。
- ・児童が一人よがりな考えに気付き、どうすればよかったのかを考えさせることをねらいとしていた。しかし、教師の返答が一つに偏ってしまった。児童の多様な考えをより引き出すために教師が複数の返答を用意しておく必要があった。

<視点2> 自分自身を振り返るだけでなく、周りの人の行動にも目を向けさせたことは、より深く自己を見つめ直すことに有効であったか。

- ・今まで行ってきた授業では、自分のことを振り返ることが多かった。今回は自分だけでなく、周りの人の考えや行動を振り返ることにより、自分自身と比較をしてより深く自己を見つめ直すことができると考え行った。児童が気付いた周りの人の考えや行動を全体で共有できるように発表させることができればよかった。
- ・有効であったと考えられるが、時間が足りなかつたので、自分や周りを見つめる時間をもっと十分にとれるとよかった。
- ・友達にしてもらって嬉しかったことなどをもっと発表させる時間があるとよかった。
- ・模範となる友人の行動を振り返ることによって、自分自身も友人と同じように行動できるようになりたいと考え、明日からの自分に希望をもてるようにするとよい。

(3) 講師講評

講師 東京家政学院大学 教授 長谷 徹 先生

<授業について>

- ・本日の授業の展開の仕方は良かった。その展開の仕方は一つのチャレンジであり、研究授業で挑戦したことに意義がある。
- ・授業の流れを変える必要はないが、構造を見直す必要があった。高学年の児童は、心の揺れや葛藤が出てくる時期であるので、その思いを児童が語れるよう、内容を十分に理解させる必要がある。そのために、それぞれの部屋に分かれた時に、内容理解までをさせておく方が良かった。内容理解を十分にし、集団対集団の役割演技でそれぞれの立場の理解ができていれば、さらに活発な意見の交換ができたであろう。内容理解の方法が課題であった。
- ・ワークシートを使って、周りの人に目をむけさせる活動は良かった。このことは、児童が「これから自分はどうしていこうか」と考えるきっかけとなった。それは、「①ねらいとする道徳的価値に気付く。②自分の生活との関わりを考える。③自分なりの課題、夢、希望をもたせる」ことにつながっていく。

< 講義 >

- ・ 道徳に大切なことは「多様な価値観と出会うこと」である。そして「広い心」とは、多様な価値観を自分の中に取り入れられることである。そのためには、相手の事情や背景を理解しようとするのが大切である。今回の授業で言うと、「どうして来なかったのかな。」「何があったんだろうな。」「何で怒っているんだろう。」など、相手の背景をここまで理解することが大切なのである。さらに、「広い心」とは、むやみに相手の考えを受け入れるのではなく、相手の立場を考えた上で受け入れられる心である。つまり、「広い心」とは、「許容・寛容・受容」を包括したものと考えて良い。
- ・ 道徳的実践力＝道徳性。その要素は順番に「心情」「判断」「意欲」「態度」である。今日の授業の展開 3 の自分の振り返りの場面では道徳的判断力を育てるためのものだった。だから、ねらいは心情を育てることではなく、「自分と異なる意見や考えを受け入れることの大切さを知る」が本時のねらいでよかった。

【成果と課題】

(1) 成果

- ・ 各児童の課題を教師が把握するよう努め、学級の実態に応じたためあてをたてたり、資料を選択したりしたことで、目指そうとする心情を育てることができた。
- ・ 年間を通して話し合いの練習をし、話し合いの機会を多く設定したことで、友達の考え方との違いに気付かせることができた。
- ・ 自分の意見をしっかりと聞いてもらえるという経験を積み重ねてきたことで、友達の意見を尊重するようになってきた。
- ・ 以前の自分と比較させることで、成長を実感させやすくなった。
- ・ 肯定的な言葉のかけ方や、多様な考え方があってよいのだということを繰り返し指導してきたことで、自分の意見を素直に言い合える環境や関係が育ってきた。

(2) 課題

- ・ 高学年として自分を振り返るとともに、友達はどうだろう、と周囲に目を向けさせるのが難しかった。
- ・ 「心情」「判断」の段階から「意欲・態度」にしていくためには、繰り返しの指導が必要である。
- ・ 高学年の資料の内容をよく吟味し、ねらいに合ったものを選択できるようにしていく。

Ⅲ 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・児童が自分自身を見つめる場を設定し、以前の自分と比較できるようにしたことで、自分の成長を実感したり、目指す自己の姿を思い描いたりできるようになった。
- ・役割演技や動作化を工夫したことで、相手の気持ちを自分のこととして考えることや、考えをより深めることができた。
- ・道徳やその他の時間にも話し方や聞き方を重点的に指導したことで、自分の意見を素直に表現し、また相手の意見を受け止める環境が整ってきた。
- ・児童にとって、身近に感じられる資料を精選したため、ねらいについてより深く考えさせることができた。
- ・全校で取り組んだあいさつ運動を通して、「よいことをすると自分も相手も気持ちが良い」ということを実感し、進んであいさつをする児童が増えた。
- ・話し合いの場を設定し、お互いの考えを伝え合う大切さを実感させたことで、道徳の授業でも、他の場面でも話し合っ問題解決しようとする意識が育ってきた。
- ・相手の気持ちを考えた言葉のかけ方を意識させることで、友達に対して優しい言葉づかいができるようになってきた。

(2) 課題

- ・自分の考えや思いを伝えられる児童は増えたが、相手の気持ちを聞いて、受け入れる段階まで進めない児童がいる。その児童が自分の思いを受け止めてもらっていると感じられる環境づくりや継続した指導が必要である。
- ・道徳的な心情から判断力、そして意欲・態度の形成へとつなげていくためには、繰り返しの指導が必要である。
- ・ねらいとする価値と、資料が合っているか十分吟味したり、資料提示の仕方をさらに改善・工夫したりする必要がある。
- ・個々の課題を児童自身や教師が把握していけるような工夫が必要である。